

授業科目名： 健康スポーツ科学課題 演習Ⅰ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：内田 勇人、 野村 健、森 寿仁 担当形態：クラス分け・単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健体育）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 体育原理		
授業のテーマ 健康スポーツ科学分野に関連する知識や研究手法について理解することをテーマとする。			
到達目標 自らの研究内容について、環境人間学の視点も含めて説明できるようになることを目標とする。			
授業の概要 研究テーマの設定、研究計画の作成、研究遂行のために必要な知識やスキルなどを修得できるよう、段階的に指導を行う。 具体的には、健康スポーツ科学研究分野の概要を理解し、文献や資料の収集方法を修得する。 また、研究内容ごとの研究計画を具体的にディスカッションし、それらのプレゼンテーション方法について学ぶこととする。			
授業計画 第1回：健康・スポーツ科学の研究のあり方 第2回：健康スポーツ科学研究の概要（人文・社会科学） 第3回：健康スポーツ科学研究の概要（自然科学） 第4回：健康スポーツ科学研究の概要（実践科学） 第5回：研究の倫理（倫理審査、ヘルシンキ宣言） 第6回：研究の倫理（剽窃、盗用） 第7回：先行研究の収集（人文・社会科学） 第8回：先行研究の収集（自然科学） 第9回：先行研究の収集（実践科学） 第10回：研究計画の作成（人文・社会科学） 第11回：研究計画の作成（自然科学） 第12回：研究計画の作成（実践科学） 第13回：スライド、研究資料の作成およびプレゼンテーション法（人文・社会科学） 第14回：スライド、研究資料の作成およびプレゼンテーション法（自然科学） 第15回：スライド、研究資料の作成およびプレゼンテーション法（実践科学） 定期試験は実施しない			

テキスト

適宜提示する

参考書・参考資料等

健康運動指導士講習会テキスト上・下

生涯スポーツ実践論-生涯スポーツを学ぶ人たちに-、川西正志・野川春夫 編著、市村出版

健康づくりのための運動の科学、鵜木秀夫・柴田真志 他、化学同人

パワーズ運動生理学、内藤久士他、メディカル・サイエンス・インターナショナル

社会疫学上・下、高尾総司監修翻訳、大修館書店

学生に対する評価

【成績評価の基準】

健康スポーツ科学分野の研究について多面的に理解し、それらの調査方法や研究法に基づいてわかりやすく説明（プレゼンテーション）できる者については、到達度に応じてS（90点以上）、A（80点以上）、B（70点以上）、C（60点以上）による成績評価のうえ、単位を付与する。

【成績評価の方法】

授業への参加状況40%、授業でのプレゼンテーション60%を基準として、受講態度（積極的な質問等）を含めて総合的に評価する。

授業科目名： 健康スポーツ科学課題 演習Ⅱ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：内田 勇人、 野村 健、森 寿仁
			担当形態：クラス分け・単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健体育）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・体育原理		
授業のテーマ			
健康スポーツ科学分野における課題を文献調査や学会等への参加を通して理解を深めることをテーマとする。			
到達目標			
文献検討、発表、議論、学会等の参加を通して、自他が関心をもつ課題について客観的かつ批判的にとらえることができ、それらを通して自身の検討課題を深め、それらにもとづいた行動計画を作成できることを目標とする。			
授業の概要			
健康スポーツ科学分野における課題や関心を有する文献の調査を行い、それらに関するディスカッションを通して課題を明らかにしていく。また、専門学会等への参加を通して、最新の情報を入手し課題認識を深める。			
授業計画			
第1回：ガイダンス（健康スポーツ科学研究の概要）			
第2回：受講生が共通して関心を有する文献の検討と課題設定（1）学校教育			
第3回：受講生が共通して関心を有する文献の検討と課題設定（2）生涯スポーツ			
第4回：受講生が共通して関心を有する文献の検討と課題設定（3）スポーツコーチング			
第5回：受講生が共通して関心を有する文献の検討と課題設定（4）スポーツトレーニング			
第6回：受講生が共通して関心を有する文献の検討と課題設定（5）発育発達と身体機能			
第7回：受講生が共通して関心を有する文献の検討と課題設定（6）運動生理・生化学			
第8回：受講生が共通して関心を有する文献の検討と課題設定（7）世代間交流			
第9回：健康スポーツ科学関連の学会等への参加			
第10回：学会等の参加記録の作成			
第11回：学会等の参加を踏まえた、検討課題の精錬			
第12回：設定課題の検討を深めていく行動計画を作成するためのガイダンス			
第13回：設定課題を深めていくための情報収集			
第14回：設定課題を深めていくために必要な方法論（質的・量的な方法）			
第15回：作成した行動計画の討議			
定期試験は実施しない			

テキスト

適宜提示する

参考書・参考資料等

生涯スポーツ実践論 川西正志・野川春夫 市村出版

社会疫学上・下、高尾総司監修翻訳、大修館書店

中学校学習指導要領解説 保健体育編 文部科学省

高等学校学習指導要領解説 保健体育編 体育編 文部科学省

パワーズ運動生理学、内藤久士他、メディカル・サイエンス・インターナショナル

学生に対する評価

【成績評価の基準】

到達目標の各項目の達成度に応じてS（90点以上）、A（80点以上）、B（70点以上）、C（60点以上）までの成績を与える。

【成績評価の方法】

文献検討における討議への参加度（30%）、学会等の参加を通じた検討課題の精錬（30%）、検討課題を深めるための行動計画の作成（40%）を含め、総合的に評価する。

授業科目名： 健康発達特論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：内田 勇人 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健体育）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・衛生学・公衆衛生学		
授業のテーマ 本講義は、人間が生涯を健康で豊かに生きがいをもって過ごすことができるための発達環境のあり方に関する知識を得ることを目的とする。 到達目標 乳幼児から高齢者に至る発達環境のあり方について、考察できるようになることを目標とする。			
授業の概要 本講義では、健康発達の定義、高齢化と健康、社会と健康、格差と健康、動物行動学にみる親子関係、種の保存、人間であること、生きがいといった子どもから高齢者に至る健康発達に関する知見について講述する。			
授業計画 第1回：健康発達の定義 第2回：高齢化と健康 第3回：社会と健康 第4回：格差と健康 第5回：動物行動学にみる親子関係 第6回：種の保存に関する研究 第7回：人間であること 第8回：生きがいとは 第9回：子どもの心の健康発達に関する研究論文 第10回：子どもの身体の健康発達に関する研究論文 第11回：子どもの心身の健康発達に及ぼす多世代交流の影響に関する研究論文 第12回：高齢者の心理的機能に関する大規模follow up研究 第13回：高齢者の身体的機能に関する大規模follow up研究 第14回：高齢者の社会的機能に関する大規模follow up研究 第15回：まとめと評価（到達度の確認） 定期試験は実施しない			
テキスト 健康発達特論（担当教員作成）			

参考書・参考資料等

時実利彦著：人間であること、岩波新書。

イチロー・カワチ著：不平等が健康を損なう、日本評論社

学生に対する評価**【成績評価の基準】**

人間が生涯を健康で豊かに生きがいをもって過ごすことができるための発達環境のあり方について理解し、健康発達特論の概念やそれを取り巻く課題について論究できる者については、講義目的・到達目標に記載する能力（知識・技能、判断力、表現力等）の到達度に基づき、S（90点以上）、A（80点以上）、B（70点以上）、C（60点以上）による成績評価のうえ、単位を付与する。

【成績評価の方法】

レポート20%、プレゼンテーション80%を基準として、受講態度（積極的な質問等）を含めて総合的に評価する。

授業科目名： トレーニング特論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：野村 健 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健体育）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・生理学（運動生理学を含む。）		
授業のテーマ トレーニングによる身体の適応能力について、その基礎知識を身に付けるとともに、健康づくりのための運動プログラムについて理解を深める。			
到達目標 各種トレーニングの原理や正しいトレーニング方法を理解するとともに、運動を処方する対象者の体力・フィットネスレベルから、適切な運動プログラムの立案を目指す。			
授業の概要 運動生理学、トレーニング科学および最新のトレーニング理論の観点から、より効果的に身体機能を高める健康づくりのための運動プログラムについて議論し、理解を深める。			
授業計画 第1回：イントロダクション 第2回：運動とエネルギー供給機構 第3回：ストレッチングの理論 第4回：ストレッチングの実践 第5回：運動と呼吸 第6回：運動と循環（1）簡易健康度テスト 第7回：運動と循環（2）データ解析 第8回：運動と筋・神経系（1）構造と機能 第9回：運動と筋・神経系（2）筋力トレーニング 第10回：運動と筋・神経系（3）スロートレーニング・自重トレーニング 第11回：運動プログラムの作成（運動処方） 第12回：子ども・成人・高齢者の身体機能およびトレーニング 第13回：疾病の予防・改善と運動（1）骨粗鬆症・内臓脂肪 第14回：疾病の予防・改善と運動（2）脂質異常症・高血圧・糖尿病 第15回：まとめと評価（到達度の確認） 定期試験は実施しない			
テキスト 適宜提示する。			
参考書・参考資料等 パワーズ運動生理学 内藤久士他 メディカル・サイエンス・インターナショナル			

分子運動生理学入門 Henning Wackerhage ナップ**学生に対する評価****【成績評価の基準】**

講義目的・到達目標に記載する能力（知識・技能、思考力、判断力、表現力等）の到達度に基づき、S（90点以上）、A（80点以上）、B（70点以上）、C（60点以上）による成績評価のうえ、単位を付与する。

【成績評価の方法】

授業での発表状況（30%）とレポート（70%）を基準とし、総合的に評価する。

授業科目名：	教員の免許状取得のための	単位数：	担当教員名：森 寿仁
生涯スポーツ教育特論	必修科目	2単位	担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健体育）		
施行規則に定める	教科に関する専門的事項		
科目区分又は事項等	・ 体育原理		
授業のテーマ			
本講義では、各ライフステージにおける心身の変化やスポーツおよび身体活動の意義を担当教員が講義するとともに、その態様を学生間で議論し、理解を深める。また、身体活動を評価するための理論を学ぶとともに実践し、それらに基づいた普及活動をどのようにすべきかを議論し、発表することを目的とする。			
到達目標			
各ライフステージ（乳幼児～青年～高齢者）における心身の変化（発達～老化）の特性を理解し、その特性と生涯スポーツの意義について考えることができ、それらを論理的に説明できる、ことを到達目標とする。			
授業の概要			
授業では、各ライフステージにおける心身の変化やスポーツおよび身体活動の意義を担当教員が講義するとともに、その内容を学生間で議論し、理解を深める。また、身体活動を評価するための理論を学ぶとともに実践し、それらに基づいた普及活動をどのようにすべきかを議論し、発表する。			
授業計画			
本講義では授業内において学術論文の抄読や2～3回の発表を行う。講義は以下の内容とする。			
第1回：生涯スポーツとは			
第2回：我が国における生涯スポーツの役割			
第3回：健康づくりにおける生涯スポーツの役割			
第4回：ライフステージ（幼児～高齢者）と生涯スポーツ			
第5回：子ども（幼児）と生涯スポーツ			
第6回：成年と生涯スポーツ			
第7回：高齢者と生涯スポーツ			
第8回：環境と生涯スポーツ			
第9回：運動処方の考え方①ーエネルギー消費量の計算方法			
第10回：運動処方の考え方②ー様々な運動のエネルギー消費量			
第11回：運動処方の考え方（まとめ）			
第12回：生涯スポーツと教育活動の関わり			
第13回：我が国における生涯スポーツ教育の再考①ー文献抄読ー			
第14回：我が国における生涯スポーツ教育の再考②ープレゼンテーションー			

第15回：まとめと評価（到達度の確認）

定期試験は実施しない

テキスト

担当教員が各授業回で配布する

参考書・参考資料等

健康運動指導士養成講習会テキスト上・下

生涯スポーツ実践論 川西正志・野川春夫 市村出版

学生に対する評価

【成績評価の基準】

生涯スポーツの意義を科学的な側面から理解し、その意義について考えることができ、その意義についてわかりやすく説明（プレゼンテーション）できる者については、講義目的・到達目標に記載する能力（知識、思考力、応用力など）の到達度に応じてS（90点以上）、A（80点以上）、B（70点以上）、C（60点以上）による成績評価のうえ、単位を付与する。

【成績評価の方法】

授業でのプレゼンテーション60%、授業への参加状況40%を基準として、受講態度（積極的な質問等）を含めて総合的に評価する。

授業科目名： スポーツマネジメント研究	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：伊藤 克広 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健体育）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・体育経営管理学		
授業のテーマ スポーツに係るマネジメントやマーケティングについて社会科学の視点から理解を深め、知識の習得を目指す。			
到達目標 社会におけるスポーツの役割などについて社会科学の視点から読み解くことを目標とする。			
授業の概要 2019年ラグビー・ワールドカップ、2021年東京オリンピック・パラリンピックが開催され、経済的・社会的に盛り上がりを見せたことは記憶に新しい。その模様は多数のメディアによって世界中に配信され、世界の関心を集めた。このようなメガ・スポーツイベントは社会に対してさまざまなインパクトを及ぼすものとして多様な形で利用されている。 こうしたスポーツイベントに加えて、近年ではeスポーツに対する関心が高まっており、国民体育大会の文化プログラムとして採用されるなど、eスポーツを用いた地域創生を目指す自治体も現れてきている。 本講義では、スポーツの普及や推進、スポーツイベントのインパクト等に関する調査報告や論文を詳読・ディスカッションを行い、社会におけるスポーツの役割などについて社会科学の視点から読み解いていく。			
授業計画 第1回：イントロダクション 第2回：スポーツの歴史、発展、文化としてのスポーツ 第3回：スポーツ政策：スポーツ基本法とスポーツ基本計画 第4回：文献の輪読・ディスカッション（1）スポーツ振興法とスポーツ基本法について 第5回：文献の輪読・ディスカッション（2）スポーツ基本計画の内容の変遷 第6回：日本におけるスポーツの現状：学校運動部活動、地域スポーツクラブの育成 第7回：文献の輪読・ディスカッション（3）地域スポーツクラブの現状と今後 第8回：文献の輪読・ディスカッション（4）学校部活動の行方 第9回：スポーツと地域活性化 第10回：文献の輪読・ディスカッション（5）スポーツと地域との関係性 第11回：文献の輪読・ディスカッション（6）スポーツで地域は盛り上がるのか 第12回：スポーツイベントのインパクトとレガシー			

第13回：文献の輪読・ディスカッション（7）スポーツイベントに対する期待

第14回：文献の輪読・ディスカッション（8）スポーツイベントは将来に何を残すか

第15回：まとめ

定期試験は実施しない

テキスト

授業中に適宜指示する。

参考書・参考資料等

詳解スポーツ基本法 日本スポーツ法学会編

ドイツの学校にはなぜ「部活」がないのか 高松平藏 晃洋書房

地域スポーツクラブの自立と持続可能性 伊藤克広 株式会社ルネック

地域活性化のポリティクス:スポーツによる地域構造の現実 小林勉 中央大学学術図書

e スポーツ地域創生 笈誠一郎 白夜書房

学生に対する評価

【成績評価の基準】

到達目標の各項目の達成度に応じてS（90点以上）、A（80点以上）、B（70点以上）、C（60点以上）までの成績を与える。

【成績評価の方法】

ディスカッション（思考力，論理性：30%）、プレゼンテーション（表現力：30%）、レポート（知識，論理性，思考力：40%）を含めて総合的に評価する。

授業科目名： バイオメカニクス	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：比嘉 昌 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健体育）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・運動学（運動方法学を含む。）		
授業のテーマ バイオメカニクスは、細胞から身体の動きまで対象は様々であるが、本講義では、主に身体 の各関節の動きを取り扱う。そのため、実際の運動計測や筋力測定などの実測を伴う内容も一 部に含まれる。			
到達目標 バイオメカニクスの概念を理解し、そのいくつかについての知識を持つこと。さらに、身体 運動の力学的な記述、分析、評価する技術を習得すること。			
授業の概要 バイオメカニクスとは、人の運動を記述、分析、評価する学際領域の学問であり、日本語に 訳すと、「生体力学」がふさわしい。身体運動を力学的な観点から幅広く取り扱う。この場合 でも適用する物理学的・生物学的原理は同じである。取り扱う対象によって変わるのは、個別 の運動課題と、要求されるパフォーマンスの繊細さである。本講義では、機械4力学の知識を もとに身体の運動を取り扱う基本を学ぶ。			
授業計画 第1回：生体工学全体の紹介 第2回：筋肉の物性（1）構造理解 第3回：筋肉の物性（2）張力発生のメカニズム 第4回：骨の物性 第5回：関節が動く仕組み 第6回：動力学と逆動力学 第7回：行列計算復習 第8回：運動学と逆運動学（1）運動計測から筋骨格モデルへのデータ移行 第9回：運動学と逆運動学（2）筋骨格モデルを用いた計算手法 第10回：運動学と逆運動学（3）計算演習 第11回：行列を用いた回転運動の表記法 第12回：複素数を用いた回転運動の表記法 第13回：スポーツへの応用（1）投球動作と回転運動 第14回：スポーツへの応用（2）体操競技と回転運動 第15回：まとめと評価（到達度の確認） 定期試験は実施しない			

テキスト

適宜提示する。

参考書・参考資料等

比嘉昌 筋トレの力学（デザインエッグ社）

学生に対する評価

【成績評価の基準】

到達目標の各項目の達成度に応じてS（90点以上）、A（80点以上）、B（70点以上）、C（60点以上）までの成績を与える。

【成績評価の方法】

授業での発表状況（30%）とレポート（70%）を基準とし、総合的に評価する。

授業科目名：	教員の免許状取得のための	単位数：	担当教員名：尾崎 公子
地域教育政策特論	選択科目	2単位	担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ			
学校と地域に関する政策動向を把握し、子どもたちの教育環境を充実させつつ、地域社会に新たな活力を生み出す教育政策を考案できる力量形成を目的とする。			
到達目標			
・ 地域と学校に関わる教育政策について理解し、説明することができる。			
・ 学校と地域との連携の意義や地域との協働の仕方について理解し、自らの主体的関わりについて述べることができる。			
授業の概要			
人と人とのかかわり、人と自然生命環境とのつながりが希薄になっているライフスタイルが問われている。本講義では、学校と地域をめぐる政策動向、課題、実践例を踏まえつつ、人間-環境系の多層多元的なくつなぎ><かかわり>を生み出す場として学校を捉える視座・方途を探っていく。			
授業計画			
第1回：オリエンテーション			
第2回：学校と地域をめぐる諸問題 (1) 少子・高齢化・過疎化問題			
第3回：学校と地域をめぐる諸問題 (2)学校配置計画			
第4回：学校と地域をめぐる諸問題 (3)廃校施設の利活用問題			
第5回：学校と地域をめぐる政策動向 (1)地方分権・規制緩和			
第6回：学校と地域をめぐる政策動向 (2)学校裁量権拡大			
第7回：学校と地域をめぐる政策動向 (3)新学習指導要領(2017)			
：「開かれた学校」から「地域と共にある学校」へ			
第8回：学校と地域をめぐる政策動向 (4)地域運営学校（コミュニティスクール）			
第9回：学校と地域をめぐる政策動向 (5)諸外国の動向			
第10回：学校づくりとまちづくり (1)学校と地域を架橋する<ひと>			
第11回：学校づくりとまちづくり (2)学校と地域を架橋する<空間>：学校施設の複合化			
第12回：学校づくりとまちづくり (3)学校と地域を架橋する<こと>			
第13回：小さな学校を活かす取り組み事例 (1)日本			
第14回：小さな学校を活かす取り組み事例 (2)韓国			
第15回：まとめと振り返り			
定期試験は実施しない			

テキスト

なし

参考書・参考資料等

本図愛美・末富芳編（2020）『新・教育の制度と経営』（学事出版）、中島勝住・中島智子編（2020）『小さな地域と小さな学校』（明石書店）

学生に対する評価

【成績評価の基準】

地域と学校に関わる教育政策について理解し、それぞれの専門領域から、“人間－環境系の多層多元的なくつなぎ＜くかかわり＞を生み出す学校”というテーマに具体的なアプローチができる者には、講義目的・到達目標に記載する能力（知識・技能、思考力、判断力、表現力等）の到達度に基づき、S（90点以上）、A（80点以上）、B（70点以上）、C（60点以上）による成績評価のうえ、単位を付与する。

【成績評価の方法】

レポート50%、プレゼン50%を基準として、受講態度（積極的な質問等）を含めて総合的に評価する。

授業科目名： 多文化共生教育特論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：乾(寺尾)美紀 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ			
日本社会は一見同質的に見えるが、近年外国人が増加していることから、多文化化が 進んでおり、教育現場においてはマイノリティとマジョリティの子どもたちに大きな 教育格差が見られている。その教育格差を埋めるためにどのような理論や政策が取られるべきであろうか。本講義では先進国や開発途上国の多民族国家にみられる教育機会の不平等や教育格差について知識を深め、多文化社会における教育のあり方について考えていくことを目的とする。また国内に住む難民や外国人にも目を向け、身近な多文化社会でどのよう な支援ができるか考えていくことを目指す。			
到達目標			
①民族的・文化的マイノリティの子どもたちが持つ問題を解決しようとする姿勢が身につく、②海外の教育事情に関する文献を英語で読むことにより、英語を読む力をつける、③ディスカッションやプレゼンテーションのスキルを身につけること、である。本講義はSDGsの中でも、目標4「質の高い教育」、目標10「人や国の不平等をなくそう」に焦点を当てている。			
授業の概要			
テキストはSession 1-15 まで分かれており、それに沿って授業を進めていく			
授業計画			
第1回：オリエンテーション（異文化理解に関するロールプレイ）			
第2回：先進国（米国）における民族の多様性と多文化共生			
第3回：先進国（米国）における民族間の教育格差と学業達成			
第4回：教育とエスニシティ（Affirmative Action）を考える			
第5回：開発途上国における教育格差とその要因（SDGs4）			
第6回：ノーベル平和賞 Malala Yousafzai氏の演説から学ぶこと			
第7回：少数民族の教育問題・教育格差の拡大（ラオスを中心に）			
第8回：教育格差を埋めるための教育政策（多文化主義とその課題について）			
第9回：多民族国家が抱える教育問題・教育格差（ゲストスピーカーの予定）			
第10回：学生によるプレゼンテーション①（多民族国家における教育問題 グループ1～3）			
第11回：学生によるプレゼンテーション②（多民族国家における教育問題 グループ4～6）			
第12回：日本におけるグローバル化と学校における文化の多様性			
第13回：多文化化と教育機会の不平等（ニューカマーの教育問題を中心に）			
第14回：難民・ニューカマーへの教育支援と地域の連携			

第15回：全体の講義のまとめ（身近な多文化共生に向けて）

定期試験は実施しない

テキスト

Miki Inui(2020) Diversity and Education Development, Union Press

参考書・参考資料等

なし

学生に対する評価

【成績評価の基準】

多文化共生に関する概念を理解し、マイノリティに対する具体的な教育支援を想定できる者については、講義目的・到達目標に記載する能力（知識・技能、思考力、判断力、表現力等）の到達度に基づき、S（90点以上）、A（80点以上）、B（70点以上）、C（60点以上）による成績評価のうえ、単位を付与する。

【成績評価の方法】

評価についてはプレゼンテーション30%、試験30%、小テスト20%、小レポート10%、積極的な取り組み10%を基準として受講態度も含めて総合的に判断する。

授業科目名： 防災心理・教育学特論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：木村 玲欧 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ			
災害に対して安全安心な社会を実現するためには、災害場面および防災を促進させるための心理・行動と適切な教育手法を理解することが重要である。本講義では災害場面および防災を促進させるための心理・行動のメカニズムと教育手法を理解するために、具体的研究成果および地域・学校等における防災教育実践について概説・検討を行うことで、この分野における研究開発能力を高める。			
到達目標			
1) 災害場面および防災を促進させるための心理・行動のメカニズムを理解すること、2) 防災を促進させるための教育手法を理解すること、である。			
授業の概要			
災害場面および防災を促進させるための心理・行動のメカニズムと教育手法を理解するために、具体的研究成果および地域・学校等における防災教育実践について概説・検討を行うことで、この分野における研究開発能力を高める。			
授業計画			
第1回：防災心理・教育学の理念と目的			
第2回：心的メカニズムの理解（1）人間の心理・行動			
第3回：心的メカニズムの理解（2）認知モデル			
第4回：心的メカニズムの理解（3）環境認知			
第5回：心的メカニズムの理解（4）集団過程			
第6回：災害・防災における心理・行動（1）リスク認知			
第7回：災害・防災における心理・行動（2）災害過程			
第8回：災害・防災における心理・行動（3）失見当・ストレス			
第9回：災害・防災における心理・行動（4）復旧・復興			
第10回：災害・防災における心理・行動（5）知見・教訓の継承			
第11回：防災教育手法の理解と実践（1）地域における防災実践			
第12回：防災教育手法の理解と実践（2）学校における防災実践			
第13回：防災教育手法の理解と実践（3）防災訓練・研修手法			
第14回：防災教育手法の理解と実践（4）未来に備えるための防災教育			
第15回：まとめ（防災心理・教育に関する研究成果・知見・教訓を概括する）			
定期試験は実施しない			

テキスト

災害・防災の心理学－教訓を未来につなぐ防災教育の最前線（木村玲欧著、北樹出版）
授業でも研修でもすぐに使える グループワークのトリセツ（木村玲欧著、北樹出版）

参考書・参考資料等

授業中に適宜資料を配付する。

学生に対する評価**【成績評価の基準】**

防災場面における人間心理・行動のメカニズムと課題を理解し、防災を促進させる教育手法
状を提案できる者に単位を授与する。講義目的・到達目標に記載する能力（知識・技能、思考
力、判断力、表現力等）の到達度に基づき、S（90点以上）、A（80点以上）、B（70点以上）、
C（60点以上）による成績評価の上、単位を付与する。

【成績評価の方法】

発表・レポート50%、グループワーク50%を基準として、受講態度（積極的な質疑応答等）を
含めて総合的に評価する。

授業科目名：	教員の免許状取得のための	単位数：	担当教員名：保坂(山中)裕子
生涯発達心理学特論	選択科目	2単位	担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める			
科目区分又は事項等			
授業のテーマ			
本講義では、これまでの学問的背景をふまえた生涯発達の視点について学ぶ。生涯発達の観点から、具体的事例に基づいて検討することをおして理解を深め、社会実践を転換していくための新たな視座を修得することを目的とする。			
到達目標			
(1) 生涯発達心理学の理論的背景について説明することができる。(2) 生涯発達心理学の観点から、社会実践について具体的に検討し、新たな実践の可能性を提示することができる。			
授業の概要			
本講義は、「生涯発達心理学」の理論的背景について学んだうえで、実践的課題について議論することを中心に進めていく。とくに、ロシアの心理学者L. S. ヴィゴツキーおよびその後継者たちが展開してきた社会・文化・歴史といった文脈と発達との関連、さらには学習論との関連について理論的に学び、社会実践への応用可能性について検討する。 本講義担当者は近年、困窮する子どもへの支援実践に関するフィールドで研究を進めており、社会的課題としての子どもの困窮状態についての検討を実践事例として取り上げる。また、受講生の関心社会実践領域に応じて、理論的基盤学習のバランスを相互に検討しながら進めていくとともに、受講生の関心実践領域に基づいた発表および議論を中心に進める予定である。			
授業計画			
第1回：オリエンテーション：人生のイメージ			
第2回：生涯発達とは			
第3回：生涯発達をとらえるモデル：U.ブロンフェンブレナーのモデル検討①生態学的志向について			
第4回：生涯発達をとらえるモデル：U.ブロンフェンブレナーのモデル検討②行動場面についての検討			
第5回：生涯発達をとらえるモデル：U.ブロンフェンブレナーのモデル検討③システムとして考えること			
第6回：発達をとらえる理論：L.S.ヴィゴツキーの理論とその発展①媒介理論と発達			
第7回：発達をとらえる理論：L.S.ヴィゴツキーの理論とその発展②最近接発達領域と発達環境			
第8回：発達をとらえる理論：L.S.ヴィゴツキーの理論とその発展③文化歴史的発達理論			
第9回：発達をとらえる理論：L.S.ヴィゴツキーの理論とその発展④活動システムと生涯発達			
第10回：発達をとらえる理論：L.S.ヴィゴツキーの理論とその発展⑤活動システムの転換			
第11回：日本における子どもの困窮問題と生涯発達（困窮をシステムとしてとらえる試みについての			

検討)

第12回：現代社会における実践課題（受講生のプレゼン）

第13回：現代社会における実践課題についてのプレゼンに関するディスカッション

第14回：現代社会における実践課題の改善に向けて

第15回：まとめと評価（到達度確認）

定期試験は実施しない

テキスト

なし

参考書・参考資料等

やまだようこ(2021)『人生心理学：生涯発達のモデル』新曜社.

Y. エンゲストローム(1986/ 1999)『拡張による学習』新曜社.

U. ブロンフェンブレンナー(1979/ 1996)『人間発達の生態学：発達心理学への挑戦』川島書店.

M. コール(1998/2002)『文化心理学』新曜社.

J. S. ブルーナー(1990/2016)『意味の復権』ミネルヴァ書房.

その他、適時指定する

学生に対する評価

【成績評価の基準】

生涯発達の観点を理解し、現代における生活実践の文脈に応用して考えられる者に単位を授与する。講義目的・到達目標に記載する項目の到達度に基づき、S（90点以上）、A（80点以上）、B（70点以上）、C（60点以上）による成績評価のうえ、単位を付与する。

【成績評価の方法】

講義中に行う発表40%、ディスカッションでの積極的な発言30%、最終のレポート30%を基準として、受講態度（積極的な質問・コメント、ディスカッションへの参加、自主レポート等）を含め、総合的に評価する。

授業科目名： 教育原論特論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：山口 裕毅 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ 本講義では、教育の基本的概念、教育の歴史や思想、現代教育の実状や課題を踏まえ、教育を語る際に用いられる言葉や概念をクリティカルに検討し、受講学生がオリジナルな見解を形成・表現することを目的とする。			
到達目標 1）教育の基本的概念、教育の歴史や思想、現代教育の実状や課題を理解すること、2）教育に関する言葉や概念をクリティカルに検討する技能を獲得すること、3）教育に関するオリジナルな見解を構築・表現するとともに、他者の見解に耳を傾け、建設的な討議を行うこと、である。			
授業の概要 本授業では、教育の基本的概念、教育の歴史や思想を概説する。その上で、教育の諸課題をめぐる課題文献の講読、小エッセイの執筆と相互検討を行う。			
授業計画 第1回：ガイダンス 本講義の目標・概要の説明 第2回：哲学とレトリック 第3回：人間形成の思想と識字教育の萌芽 第4回：ペスタロッチ、フレーベル、ヘルバルト、デューイの教育思想と教育実践 第5回：公教育の成立と展開 第6回：「コミュニケーション能力」の検討 第7回：能力概念の批判的検討 第8回：「不登校」問題の検討 第9回：教育問題の語られ方と批判的検討 第10回：公教育における教育的関係の特徴 第11回：子ども理解の機制と倫理 第12回：学校の問題構制と学習者の他者性の検討 第13回：「学び」の検討と構想 第14回：認識的不正義論と善い学び 第15回：まとめと評価 定期試験は実施しない			

テキスト

適宜、資料を配布する。

参考書・参考資料等

坂越正樹監修，2019，『教育的関係の解釈学』，東信堂.

教育思想史学会編，2017，『教育思想事典』（増補改訂版），勁草書房.

学生に対する評価

【成績評価の基準】

教育に関する言葉や概念を理解したうえでクリティカルに検討し、オリジナルな見解を形成できる者については、到達目標の到達度に基づき、S（90点以上）、A（80点以上）、B（70点以上）、C（60点以上）による成績評価のうえ、単位を付与する。

【成績評価の方法】

授業中の課題：40%、期末レポート：60%を基準として、受講態度（積極的な質問等）を含めて総合的に評価する。

授業科目名： 臨床心理学特論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：井上 靖子 担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ 本講義は、臨床心理学の基礎知識を取り入れ、人間の心とは何かについて自らの言葉で説明できること、日常生活において気になる心の諸問題について振り返り、臨床心理学的な観点から検討を行い、自らの考えや意見を表現できることを目的とする。さらに、心理テストや心理療法の演習を行い、人々との関わりで癒える力とは何かを探究していく。さらに各自が、自らの研究テーマに関係づけられる、もしくは各自が興味関心をもった心の諸問題をテーマにして発表し、それらの個別事例や体験談に対してどのような捉え方をしたり、関わっていくのがよいのかを討論していくことを目標とする。 到達目標 1) 臨床心理学の基礎知識を取り入れ、人間の心とは何かについて自らの言葉で説明できる、2) 心の諸問題を臨床心理学的な観点から検討して、自らの考えや意見を表明できる、3) 心理テストや心理療法の演習を通して、人々との関わりで癒える力とは何かを探究していく、4) 自らの研究テーマに関係づけられる、もしくは各自が興味関心をもった心の諸問題をテーマとして取り上げられる、である。			
授業の概要 本講義では、児童や生徒、保護者の心の諸問題について、臨床心理学的な観点から人間理解を深め、カウンセリングについての基礎知識と実践力を身につけることを目的とする。臨床心理学の基礎知識について講述したうえで、各種セラピーの演習を行い、自己覚知や心身の感受性の涵養が臨床実践の基本にあることを体得してもらう。各自が学校現場における心の諸問題のなかで関心のあるテーマを選び、事例や体験談に基づく発表を行い、対話し合うことを重視する。			
授業計画 第1回：ガイダンス 本講義の目的と概要の説明 第2回：心とは何か 第3回：心の捉え方 心理アセスメント 第4回：心理アセスメント演習 第5回：カウンセリングの基礎 第6回：カウンセリングの実践 第7回：カウンセリングの事例検討（児童虐待） 第8回：表現療法の概説 第9回：表現療法の実践と解釈 第10回：箱庭療法の概説 第11回：箱庭療法の実践と解釈			

第12回：夢分析の概説

第13回：夢分析の実践と解釈

第14回：学校における心の諸問題の理解と対応（思春期危機・摂食障害）

第15回：学校における心の諸問題の理解と対応（発達障害・生きづらさ・いじめ）

定期試験は実施しない

テキスト 必要に応じて講義毎にプリント資料などを準備し、配布する。

参考書・参考資料等：河合隼雄（1992）『子どもと学校』岩波新書

井上靖子編（2020）『経験と理論をつなぐ心理学』八千代出版

学生に対する評価

【成績評価の基準】

臨床心理学の基礎知識を取り入れ、人間の心とは何かについて自らの考えや意見を言葉やイメージで表現できる、心理テストや心理療法演習、および各自が、自らの研究テーマに関係づけられる、もしくは各自が興味関心をもった心の諸問題をテーマにして、パワーポイント等を用いた発表に出席した者に単位を授与する。講義目的・到達目標に記載する能力（知識、思考力、想像力や共感力等）の到達度に応じてS（90点以上）、A（80点以上）、B（70点以上）、C（60点以上）による成績評価のうえ、単位を付与する。

【成績評価の方法】

単位認定レポート60%、演習レポート40%を基準とし、受講態度（出席率、演習への取り組み、積極的な質問等を含めて総合的に評価する。

授業科目名： 生徒指導実践特論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名：竹内 和雄 担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ 学校で起きている生徒指導事案の今日的課題を把握し、子どもの健全育成のための学校、地域、社会が果たすべき役割を考案できるようになることを目的とする。 到達目標 ・ 生徒指導の今日的課題を理解し、説明することができる。 ・ 学校、地域、社会の中の子どもたちの状況を理解し、課題解決のために自ら主体的に関わり方向性について述べることができる。			
授業の概要 本講義では、生徒指導の現状について、具体例を示しながら、事例研究を中心に行う。さらに進めて、課題解決のための具体的な方策や課題作成、提示方法について、グループワークを頻繁に行う中で、実践的に取り組む。			
授業計画 第1回：オリエンテーション 第2回：生徒指導の諸問題（1）子どもを取り巻く環境の変化 第3回：生徒指導の諸問題（2）生徒指導課題の変化（いじめ） 第4回：生徒指導の諸問題（3）生徒指導課題の変化（不登校） 第5回：生徒指導の諸問題（4）生徒指導課題の変化（暴力行為） 第6回：生徒指導の諸問題（5）生徒指導課題の変化（ネット問題） 第7回：生徒指導の方向性（1）対応方法の検討（いじめ） 第8回：生徒指導の方向性（2）対応方法の発表、討議（いじめ） 第9回：生徒指導の方向性（3）対応方法の検討（不登校） 第10回：生徒指導の方向性（4）対応方法の発表、討議（不登校） 第11回：生徒指導の方向性（5）対応方法の検討（暴力行為） 第12回：生徒指導の方向性（6）対応方法の発表、討議（暴力行為） 第13回：生徒指導の方向性（7）対応方法の検討（ネット問題） 第14回：生徒指導の方向性（8）対応方法の発表、討議（ネット問題） 第15回：まとめ（生徒指導に関する研究成果・知見・教訓を概括する） 定期試験は実施しない			

テキスト

なし

参考書・参考資料等

生徒指導提要（文部科学省、2022 年）

10 代と考える「スマホ」（竹内和雄著、岩波書房）

学生に対する評価

【成績評価の基準】

生徒指導を理解し、実践に活かす方向性を持つことができる者については、講義目的・到達目標に記載する能力(知識・技能、思考力、判断力、表現力等)の到達度に基づき、S(90 点以上),A(80 点以上),B(70 点以上),C(60 点以上)による成績評価のうえ、単位を付与する。

【成績評価の方法】

授業中における発表・質疑応答（50%）、各回の小レポート（20%）、最終レポート（30%）

授業科目名： 人間学特論		教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：西村 洋平 担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談に関する科目			
施行規則に定める 科目区分又は事項等				
授業のテーマ				
現代アメリカの政治哲学者マーサ・ヌスバウムは、人間が尊厳ある生を営むために必要なものを人間の可能性（ケイパビリティ）に基づいて規定し、その可能性リストを充足することが社会的正義であると論じる。本講義は、ヌスバウムの「可能性アプローチ」を取り上げて論じ、人間の本質とは何か、尊厳ある生とは何か、その実現のためにどのような教育や支援が必要なのかを考える。				
到達目標				
（1）ヌスバウムの「可能性アプローチ」の理論・概念を説明し、学校や社会的支援の現場に応用する。（2）人間の本質や尊厳とは何か、人間はどのように生きるべきなのかという人間学の根本について、「可能性アプローチ」を通して説明する。（3）他者への配慮とケア、他者の尊厳を守るという道徳の本質について、「可能性アプローチ」と関係づける。				
授業の概要				
本講義では、まずヌスバウムの『正義のフロンティア—障害者・外国人・動物という境界を超えて』での障害者に対するケアの問題を読み、「可能性アプローチ」について理解を深める。次に、『経済成長がすべてか？デモクラシーが人文学を必要とする理由』で論じられる、他の集団や劣った者を排除してしまう傾向を克服するための、人間性涵養のための教育論を取り上げる。最後に、現代日本における様々な問題を取り上げて、学校や社会的支援の現場においてどのように可能性アプローチが応用可能かを考える。				
授業計画				
第1回：イントロダクション：ヌスバウムについて				
第2回：背景にある正義の問題（『正義のフロンティア』第1章の解説）				
第3回：忘れられた障害者へのケア（『正義のフロンティア』第2章前半を読む）				
第4回：ケアの倫理とその問題（『正義のフロンティア』第2章後半を読む）				
第5回：可能性アプローチによるケアのあり方（『正義のフロンティア』第3章前半を読む）				
第6回：人間の尊厳について（『正義のフロンティア』第3章後半を読む）				
第7回：人間性涵養のための教育（『経済成長がすべてか？』第3章を読む）				
第8回：他者と対話することの重要性（『経済成長がすべてか？』第4章を読む）				
第9回：世界市民のための教育（『経済成長がすべてか？』第5章を読む）				
第10回：教育現場への応用（1）人間の尊厳と道徳教育				
第11回：教育現場への応用（2）いじめの問題				
第12回：教育現場への応用（3）ヤングケアラー問題を通して家族・学校の間を考える				

第13回：社会的支援への応用（1）ジェンダー格差や性的マイノリティへの差別の問題

第14回：社会的支援への応用（2）高齢者の可能性を考える

第15回：現代日本社会の問題に応用する（履修者によるレポート）

定期試験は実施しない

テキスト

マーサ・C・ヌスバウム『正義のフロンティア—障害者・外国人・動物という境界を超えて』（神島裕子訳）法政大学出版局，2012年

マーサ・C・ヌスバウム『経済成長がすべてか？デモクラシーが人文学を必要とする理由』（小沢自然・小野正嗣訳）岩波書店，2013年

参考書・参考資料等

神島裕子『マーサ・ヌスバウム—人間性涵養の哲学』中央公論新社，2013年

学生に対する評価

【成績評価の基準】

ヌスバウムの「可能性アプローチ」を理解し、批判的に吟味・分析でき、人間が尊厳ある生を送るために必要なことについて自分の考えを根拠とともに示すことができている者については、講義目的・到達目標に記載する能力（知識・技能、思考力、判断力、表現力等）の到達度に基づき、S（90点以上）、A（80点以上）、B（70点以上）、C（60点以上）による成績評価のうえ、単位を付与する。

【成績評価の方法】

授業での取り組み（レジュメ、ディスカッションへの参加）60%と、レポート40%を基準として、総合的に評価する。

授業科目名： ライフステージ栄養学 特論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：永井 成美、島田 (村西)良子、半澤 史聡
			担当形態：オムニバス
科 目	栄養に係る教育に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ			
ライフステージの中でも発育期は生涯の健康の基盤となる重要な時期である。本講義では、ヒトの望ましい栄養や発達を促すために役立つ知識を修得するとともに、それらを実社会（家庭、地域、職域、教育現場等）で応用できる力の育成を目的とする。			
到達目標			
1) ライフステージと栄養発達行動について理解する、2) 望ましい食品選択行動を促すための知識（食品や時間栄養学を含む）と行動変容スキルを習得する、3) 学んだ知識とスキルを研究や実社会での活動に応用できる。			
授業の概要			
本講義では、授業のテーマに基づき、授業計画に従い講義する。グループディスカッションや発表等のアクティブラーニングを取り入れる。			
授業計画			
第1回：ライフステージと栄養発達行動（総論）（担当：永井成美）			
第2回：各論1：特別な支援を必要とする小児への食育（担当：永井成美）			
第3回：各論2：開発途上国の小児の栄養課題と支援（担当：永井成美）			
第4回：各論3：行動変容技法を用いたライフステージ別アプローチ（担当：永井成美）			
第5回：発表とディスカッション：第1～4回内容を踏まえた食育計画（担当：永井成美）			
第6回：食環境と食品の機能性（総論）（担当：島田(村西)良子）			
第7回：各論1：食品産業の現状と課題、フードテック（担当：島田(村西)良子）			
第8回：各論2：食品表示と栄養成分表示の活用（担当：島田(村西)良子）			
第9回：各論3：食物繊維と健康（担当：島田(村西)良子）			
第10回：発表とディスカッション：ライフステージにあわせた食品表示活用方法（担当：島田(村西)良子）			
第11回：時間栄養学のライフステージ別健康づくりへの応用（総論）（担当：半澤史聡）			
第12回：各論1：食事時刻と健康（担当：半澤史聡）			
第13回：各論2：運動時刻と健康（担当：半澤史聡）			
第14回：各論3：睡眠・覚醒リズムと健康（担当：半澤史聡）			
第15回：発表とディスカッション：時間栄養学からみた栄養・健康課題と解決方策（担当：半澤史聡）			

定期試験は実施しない

テキスト：資料を適宜配布する。

参考書・参考資料等：

- ・永井成美：二木武編著、新版小児の栄養発達行動、医歯薬出版、1995年
上田 遥著、食育の理論と教授法、昭和堂、2021年
誰一人取り残さない日本の栄養政策、厚生労働省、2020年
https://www.mhlw.go.jp/nutrition_policy/global/pdfs/leave_no_one_behind_jp.pdf
- ・半澤史聡：柴田重信編、時間栄養学 時計遺伝子、体内時計、食生活をつなぐ、化学同人、2020年
- ・島田(村西)良子：・外村 仁 監修、フードテック革命 世界700兆円の新産業 「食」の進化と再定義、株式会社日経BP、2020年
 - ・日本食物繊維学会 監修、食物繊維 ―基礎と応用―、第一出版株式会社、2008年
 - ・内藤裕二著、すべての臨床医が知っておきたい腸内細菌叢 基本知識から疾患研究、治療まで、株式会社羊土社、2021年
 - ・食品表示法に基づく栄養成分表示のためのガイドライン第3版、消費者庁栄養表示企画課、2020年、https://www.caa.go.jp/policies/policy/food_labeling/health_promotion/pdf/food_labeling_cms206_20201001_02.pdf
 - ・食品衛生の窓、東京福祉保健局、2022年、https://www.fukushihoken.metro.tokyo.lg.jp/shokuhin/hyouji/shokuhyouhou_index.html

学生に対する評価

【成績評価の基準】

ヒトの望ましい栄養や発達を促すための知識を理解し、それを実社会で応用する方法を修得した者については、講義目的・到達目標に記載する能力（知識・技能、思考力、判断力、表現力等）の到達度に基づき、S（90 点以上）、A（80 点以上）、B（70 点以上）、C（60 点以上）による成績評価のうえ、単位を付与する。

【成績評価の方法】

提出された課題（50％）、発表（50％）を基準として、受講態度（積極的なコメントや質問等）を含め、総合的に評価する。

授業科目名： 実践栄養学特論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：伊藤 美紀子、 田中(林)更沙、中出 麻紀子、 吉田 優
			担当形態：オムニバス
科 目	栄養に係る教育に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ			
現代社会における食を取りまく現状から 飢餓をゼロに、また、すべての人に健康と福祉を与えるための課題を明らかにし、食や栄養学的な視点からどのようなアプローチが可能であるか考察し、他人に説明できるようになることを目的とする。			
到達目標			
多面的な学問領域から考察し、自らの考えを表現できるようになることを目標とする。			
授業の概要			
教員が専門とする分野の最新情報を講義する。一部、受講者が発表し意見交換を行うことで理解を深める回がある。			
授業計画			
第1回：実践栄養学特論のガイダンス、食事療法の最新情報（担当：伊藤美紀子）			
第2回：食物アレルギーの現状と最新知識（担当：伊藤美紀子）			
第3回：栄養学分野のトピックスに関する紹介（担当：伊藤美紀子）			
第4回：栄養学分野のトピックスに関する議論と考察（担当：伊藤美紀子）			
第5回：現代日本の低栄養問題とリフィーディングシンドローム（担当：田中(林)更沙）			
第6回：臨床栄養分野の最新学術論文を読み解き紹介（担当：田中(林)更沙）			
第7回：臨床栄養分野の最新学術論文の議論と考察（担当：田中(林)更沙）			
第8回：人と食塩摂取の歴史（担当：中出麻紀子）			
第9回：食塩摂取と循環器疾患（担当：中出麻紀子）			
第10回：子どもにおける食塩摂取（担当：中出麻紀子）			
第11回：食塩摂取減少のための国際的な取り組み（担当：中出麻紀子）			
第12回：生活習慣病の現状と予防について～糖尿病をモデルとして～（担当：吉田 優）			
第13回：糖尿病患者の心理と療養指導（担当：吉田 優）			
第14回：NST に必要な栄養アセスメント（担当：吉田 優）			
第15回：NST に必要な経腸栄養と静脈栄養の知識（担当：吉田 優）			
定期試験は実施しない			
テキスト			
使用しない			

参考書・参考資料等

伊藤、田中(林)、中出：講義中に適宜紹介する。

吉田：認定病態栄養専門師のための病態栄養ガイドブック（改訂第5版）日本病態栄養学会編
メディカルレビュー社

学生に対する評価**【成績評価の基準】**

栄養学を理解し、現場で活用ができる能力を身につけた者については、講義目的・到達目標に記載する能力（知識・技能、思考力、判断力、表現力等）の到達度に基づき、S（90 点以上）、A（80 点以上）、B（70 点以上）、C（60 点以上）による成績評価のうえ、単位を付与する。

【成績評価の方法】

提出された課題（80％）、発表（20％）を基準として、受講態度（積極的なコメントや質問等）を含め、総合的に評価する。なお、成績は4人の教員の総合点で評価する。

授業科目名： 食品科学特論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名：吉村 美紀、 村上 明、石坂(小島)朱里、 坂本薫
			担当形態：オムニバス
科 目	栄養に係る教育に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ			
ヒトは健康を維持し、活動するためには食べ物を摂取しなければならない。ヒトの栄養は戦後の不足から、過剰の状態へと変化し、栄養を効率よく摂取することだけでなく、嗜好性あるいは疾病予防の視点から考えることは重要である。本講義では、食品科学について栄養、嗜好、機能性の基礎に対する理解を深めることを目的とし、ヒトの健康維持、疾病予防、運動、食生活などの関連性について考察する。			
到達目標			
・ 1 回～4 回では、感覚機能を有効に発現させるための、食品のレオロジーとテクスチャーについて考察できるようになることを目標とする（吉村）。 ・ 5 回～8 回では、食品の機能性について科学的に解明することを目標とする（村上）。 ・ 9 回～11 回では、食品機能性研究の具体的手法と、科学的な思考力の習得を目標とする（石坂(小島)）。 ・ 12 回～15 回では糖質科学についての理解を深め、科学技術が調理科学を通して食生活、食文化につながることを考察でき、説明できるようにすることを目標とする（坂本）。			
授業の概要			
一次機能は、ヒトが生命現象を営むために必要不可欠なエネルギーや生体の構成成分として必要な栄養素の機能である。二次機能は、味覚、嗅覚、視覚、聴覚から知覚され、食生活に満足感を与える感覚機能である。三次機能は生体防御、老化抑制などの生体調節機能である。本講義では、食品のこれらの機能について、科学的に解明する。			
授業計画			
第 1 回：食品の感覚機能・嗜好性と健康（担当：吉村美紀）			
第 2 回：食品のレオロジー・サイコロロジー（担当：吉村美紀）			
第 3 回：咀嚼・嚥下機能と食品テクスチャー（担当：吉村美紀）			
第 4 回：高齢者の咀嚼機能と食品テクスチャー（担当：吉村美紀）			
第 5 回：食品機能性成分の同定方法（担当：村上 明）			
第 6 回：食品機能性を評価する実験方法（担当：村上 明）			
第 7 回：食品機能性成分の作用機構（担当：村上 明）			
第 8 回：食品機能性成分の副作用（担当：村上 明）			

第 9 回：食品機能性成分の代謝吸収機構（担当：石坂(小島)朱里）

第 10 回：動物や微生物を用いた食品機能性研究の実際（担当：石坂(小島)朱里）

第 11 回：食品機能性に関する英語論文紹介（担当：石坂(小島)朱里）

第 12 回：糖質科学の世界（担当：坂本 薫）

第 13 回：糖質科学と食生活（担当：坂本 薫）

第 14 回：食品と調理科学（担当：坂本 薫）

第 15 回：食品と食文化（担当：坂本 薫）

定期試験は実施しない

テキスト

適宜資料を配布する。

参考書・参考資料等

食品物性とテクスチャー（小林三智子、神山かおる編著 建帛社）ほか、適宜示す。

学生に対する評価

【成績評価の基準】

食品科学について栄養、嗜好性、機能性の観点から理解し、ヒトの健康維持、活動、疾病予防、食生活などの関連について考察できる者については、講義目的・到達目標に記載する能力（知識・技能、思考力、判断力、表現力等）の到達度に基づき、S（90 点以上）、A（80 点以上）、B（70 点以上）、C（60 点以上）による成績評価のうえ、単位を付与する。

【成績評価の方法】

レポート 50%、発表 50%などを評価の基準として、受講態度（積極的な質問等）を含めて総合的に評価する。

授業科目名： 生命環境特論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名：加藤 陽二、 有満 秀幸、小村(竹内)智 美、 金子 一郎
			担当形態：オムニバス
科 目	栄養に係る教育に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ			
生命に及ぼす環境要因の寄与を学ぶ上で、環境由来の因子と健康の関係を探求することは重要である。本講義では、生命を基軸として環境要因との関わりに関して理解を深めることを目的とし、さらにそれを具現化するために、研究倫理を含め、実験的な解析手法などを解説・実践する。また英語学術論文を読み、理解する能力を身につけるために、学術論文の投稿及び出版の仕組みと現状についても講義する。			
到達目標			
本講義の到達目標は、1) 環境と生命・食の関わりを知り、その仕組みを研究する手法を理解して、説明できること、2) 自身の研究に関する内容を聴衆にわかりやすく発表し、質疑も含め的確に説明できることである。			
授業の概要			
本講義では最初に教員の研究室や研究テーマ、研究技法をそれぞれ紹介し、次いで講義を通じて生命と環境、食、研究倫理について概観する。関連研究を進めるための技法を解説し、実践する。また、学術論文がどのような流れで出版されているかを学ぶ。論文や学会発表などで必要になる要旨のまとめ方、また発表及び質疑応答の方法も実践的に学ぶ。最後には学んだことを生かし、各受講生の発表及び質疑応答を行う。			
授業計画			
第1回：ガイダンス 本講義の目標、概要説明（担当：全員）			
第2回：「食品の安全性を脅かす細菌の同定・検出法に関する研究」の紹介（担当：有満秀幸）			
第3回：「酸化ストレスと疾病、及び、食品成分に着目した研究」の紹介（担当：加藤陽二）			
第4回：「生活環境とビタミンに関する研究」の紹介（担当：金子一郎）			
第5回：「モデル生物（線虫など）を用いた食品の機能性に関する研究」の紹介（担当：小村(竹内)智美）			
第6回：「抗原特異抗体の作製技術」の解説（担当：有満秀幸）			
第7回：「フィトケミカル、アミノ酸、及び、タンパク質などの質量分析法」の解説 （担当：加藤陽二）			
第8回：「遺伝子組み換え技術を用いた食・栄養学研究（実践例）」の解説（担当：金子一			

郎)

第9回：「モデル生物（線虫）を用いた分子生物学な技法」の解説（担当：小村(竹内)智美）

第10回：ライフサイエンスに関する倫理・法規（担当：有満秀幸）

第11回：学術論文の執筆・投稿から出版まで（担当：加藤陽二）

第12回：生命科学系の学会参加・発表の意義とプレゼン方法（担当：金子一郎）

第13回：要旨の作成法（担当：小村(竹内)智美）

第14回：学生による研究テーマ発表1（担当：全員）

第15回：学生による研究テーマ発表2／まとめと評価（到達度の確認）担当：全員）

定期試験は実施しない

テキスト：資料を適宜配布する。

参考書・参考資料等

- ・有満秀幸：「微生物学実習提要」第2版、東京大学医科学研究所学友会 編、丸善株式会社
- ・加藤陽二：講義中に適宜紹介する
- ・金子一郎：宮本賢一・井上裕康・桑波田雅士・金子一郎編著、分子栄養学、講談社、2018年
- ・小村(竹内)智美：内藤裕二編著、「Microbiome Science」、先端医学社、2023年、及び、福地健太郎・園山隆輔著、「図解でわかる！理工系のためのよい文章の書き方 論文・レポートを自力で書けるようになる方法」、翔泳社、2019年

学生に対する評価

【成績評価の基準】

生命を取り巻く環境（食を含む）に関して、その研究・探索手法及びその成果の公表方法を理解し、自身の研究についても考察・実践できる者については、講義目的・到達目標に記載する能力（知識・技能、思考力、判断力、表現力等）の到達度に基づき、S（90点以上）、A（80点以上）、B（70点以上）、C（60点以上）による成績評価のうえ、単位を付与する。

【成績評価の方法】

課題等の提出物（10%）、プレゼンテーション（作成した要旨、パワーポイントおよび実際のプレゼンテーション、質疑応答を含め90%）を基準として、受講態度（積極的なコメントや質問等）を含め、総合的に評価する。

授業科目名： 臨床食環境栄養特論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：伊藤 美紀子、坂 本 薫、中出 麻紀子、吉田 優 、吉村 美紀
			担当形態：オムニバス
科 目	栄養に係る教育に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ 現代社会における食を取りまく現状から課題を明らかにし、食や栄養学的な視点の研究アプローチにつなげることを目的とする。 到達目標 多面的な学問領域から考察が出来るようになることを目標とする。			
授業の概要 食と栄養の専門家が、様々な視点から現代社会における食を取りまく現状と課題について講義する。			
授業計画 第1回：ガイダンス 医療における食・栄養とは（担当：伊藤美紀子） 第2回：低栄養の現状と課題（担当：伊藤美紀子） 第3回：栄養・食事療法による病態改善について（担当：伊藤美紀子） 第4回：日本人の栄養状況の変遷、栄養改善の歴史（担当：中出麻紀子） 第5回：近年の日本人の健康・栄養上の問題点（担当：中出麻紀子） 第6回：近年の疾病予防・健康増進対策（担当：中出麻紀子） 第7回：現代日本人の食事と肥満、糖尿病について（担当：吉田 優） 第8回：塩分と高血圧について（担当：吉田 優） 第9回：食生活環境とがんについて（担当：吉田 優） 第10回：今求められる「給食」とは（担当：坂本 薫） 第11回：HCAPPと新調理システム（担当：坂本 薫） 第12回：食品から食物へ（担当：坂本 薫） 第13回：学童期の栄養（担当：吉村美紀） 第14回：思春期の栄養（担当：吉村美紀） 第15回：高齢期の咀嚼・嚥下障害への対応（担当：吉村美紀） 定期試験は実施しない。			
テキスト 特に指定しない。必要に応じて資料を配付する。			
参考書・参考資料等			

荒巻礼子, 今井絵理編. 栄養・健康科学シリーズ公衆栄養学. 化学同人.
栄養科学イラストレイティッド 臨床医学 疾病の成り立ち (改訂第3版) 羊土社
今日の治療薬 2022 (南江堂)、臨床検査値判読ハンドブック (南江堂)
その他、必要に応じて講義中に紹介する。

学生に対する評価

【成績評価の基準】

現代社会における食の課題について理解し、その解決方法について多面的な学問領域から考察できる者については、講義目的・到達目標に記載する能力（知識・技能、判断力、表現力等）の到達度に基づき、S（90点以上）、A（80点以上）、B（70点以上）、C（60点以上）による成績評価のうえ、単位を付与する。

【成績評価の方法】

講義ごとのレポート課題（70%）受講態度（積極的な質問等）（30%）を含めて総合的に評価する。なお、成績は5人の教員の総合点で評価する。